社会福祉法人
名東福祉会
機関誌ワークス

WORKS

Empower&Energize

No110
2007/12

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

消費税増税は障害者福祉に幸せをもたらすか

名東福祉会　理事長　加藤久和

消費税の増税の論議がさかんです。国や地方行政のやっていることには無駄が多く、最近の政治情勢はただでさえ悪化している財政をさらに悪化させています。無駄ならまだしも社会保障に絡む不正や防衛に絡む巨悪も次々に明るみに出てきます。

今政治はこれまでの歳出削減の無駄をなくす努力は不要であったかのような「小春日和」を迎えていますが果たしてそれでよいのでしょうか。例えば消費税のアップ論議。必要な財政支出をまかなうためには増税が必要という論議です。

財政立て直しのために消費税を上げることはよくありません。高齢者医療費負担増の凍結など、もっと議論すべきであるのにあっさりと通過しそうな気配です。

消費税増税になればじわじわと上がる食料品等の物価上昇と消費税の上昇のダブルパンチでただでさえ不十分な障害基礎年金はますます自由に使えないようになるでしょう。消費税の増税の逆進性もさることながら、消費税増税と金融の緊縮でこのまま経済が縮小することが怖い。失われた15年で私たちは不景気の怖さを体験してきています。

1障害者が働く場所がなくなる（まっさきに解雇）
2下請けの作業がなくなる
3授産製品が売れなくなり工賃が減少する

やはり健全な経済成長があってはじめて障害者福祉も安定します。中途半端な増税によって経済が停滞し、税源が不足するという悪循環が続くことがいけません。成長力が落ち込んだままだと、障害者雇用は夢のまた夢。障害者自立支援法によって施設で生活することもだめ、企業に就職することもだめでは障害がある人はどこで生活すればよいのかということになります。障害者福祉の質は成長力が確保されてこそ安定します。あいまいな増税論は障害者福祉にとってカンフル剤とはならず、毒針となるのではないかと思います。

では消費税を上げずにどこに支援費の財源を求めるのでしょうか。徹底的に行政の無駄をなくすことが第一。次に介護保険と同様の障害者保険の導入です。具体的には20才からの介護保険者の加入です。高齢者福祉が厳しくなったとはいえ、介護保険と支援費の単価差を見る限り、障害者福祉の不公平さは解消されているとは言えません。例えば終末医療。医療保険の世界は国の予算とは切り離されているため、無駄が見えないのです。でもそこには障害者福祉の世界とはケタ違いの無駄が存在しています。こうした不公平がそのまま放置されるのはやはり障害者福祉に国民が無関心であることが原因でしょう。

ですが介護保険の障害者への拡大は経団連、医師会、高齢者福祉団体の反対でなかなか切り込めません。経団連は消費が減速する恐れがあるから反対（消費税は商品に転化できるので賛成）。医師会は医療保険が見直されることにつながるから反対。高齢者団体は障害者への介護保険の分配で割り当てが減るのがいや。そうした中で肝心の障害者団体は支援費が義務的経費になったことと激変緩和措置が出ただけで安心しきってしまいました。

これを解消するためには政治を変える必要があります。そのためには親の会と民間福祉施設やNPOが連携することです。全国知的障害者福祉協会には育成会とは別に全国の施設利用者の親の会を組織化する動きがあります。ただでさえ小さな集団が団体のいがみ

合いでさらに細分化されていけば、国民の関心はさらに遠ざかってしまいます。

小島一郎（名東区障害者地域生活支援センター所長）

「国民の関心が障害者福祉に向かない」のは、やはり、「誰もが年をとる」という高齢者福祉の分かりやすさに比べ、障害というものの身近さを国民が感じにくいからでしょうか。同じような意味で、それでは児童福祉はどうかとも考えてみたりするのですが、やはり今ひとつの感がある。結局のところ、誰もが「自分の問題」に一番の関心があるのであって、年老いた先の不安というのは避けられないし、そのための福祉の負担は何とか受容できるが、障害者が家族や親戚にいる訳でもない、結婚するかどうかも分からないし、自分に子どもができるかなんて、もっと分からないとなると、なかなかこれらの問題に主体的に向き合おうとは思っていただけないのでしょうね。

ただ、私自身、支援Ｃでの相談業務や認定調査を通じて、いかに大勢の方々が生活習慣病から身体障害者となっているか、いかに精神疾患を抱えた方々が普通に地域で暮らしているかを知ってしまい、一個人として、素直に自分の問題として捉えられるようになったという経験をしております。誰もが年をとるように、誰もが障害者になり得るといった実感です。ですから、アナウンス次第で、広く国民が障害者福祉に目を向ける可能性は、充分にあると思っています。

ひとつ難しいのは、知的障害者の問題。一応、正常域内にＩＱがある人間としては、自分が知的障害を負うかもしれないとは思えません。また、自分の子どもが負うかもしれないという論理も、やはり「誰もが・・・」というシンプルさにはとても敵いません。つまり、知的障害へ国民の関心を向けることが最も困難で、せいぜいＴＶドラマなどで、「無垢な天使」のようなレベルの扱われ方をするのに留まってしまいます。

私のように、１５年も知的障害者施設にいた人間は、「自分がなるはずのない」知的障害をもった利用者を相手にし続けた結果、「自分もなるかもしれない」身体障害や精神障害にインパクトを受けている訳です。ある意味、象徴的な話です。実際には、「誰もがなるかもしれない」脳血管障害やうつ病の話は医療の話となり、予防の話、健康の話として政策反映されているので、ダイレクトに障害者福祉を動かすことはないのですが、教育や福祉、医療といった分野を体系的に大人が理解するよう、構想していかないといけないと強く思うこの頃です。それが、社会の成熟ってものではないですか。政治や行政のプロは、それを形にしてこそのプロですよね。

奈々枝日記

みのりの秋になりました。上の山児童行動療育センターの前に、大きな柿の木が二本あり、たわわに柿の実が実っています。

この夏は私も畑になす、きゅうり、ミニトマトをつくり、十分夏野菜を楽しむことができました。みなさんにもらっていただいたりして、この物の十分な時代にも食べ物を自分で作ると言うことは貴重なことだと思いました。

私の女学生時代は戦中華やかなりし頃で、英語等の授業は廃止され、軍需工場の部品作業に切り替えられていました。

それでも女学校には「おかっぽう」の時間が周１回だけ残されていました。食糧事情がひっぱくしていることもあり、食材はなす、トマト、きゅうり、じゃがいも、タマネギなど畑の野菜ばかり。砂糖も不足していて調味料は塩とカレー粉ぐらい。たんぱく源がほとんどない粗末な調理実習が続きました。ですが、弟や妹たちがそのおかっぽう実習材を持って私が帰るのを楽しみにしてくれ

「おいしい、おいしい」

と見る間に食べてしまい、とても喜んでくれるのがどんなに嬉しかったでしょう。クラスのみんなは

「そのくらい、ここで食べてしまえば。苦労して持って帰らなくともよいのに」

と不思議がりましたが、私は、私のお料理を首を長くして待っていてくれる弟や妹たちを思い、阪急電車にゆられながら帰宅しました。

児童療育センターの評判も良く、畑は今や秋ものの野菜が目立ちはじめています。空地にしてケアホームが建つのを今か今かと待っている場所もあり、ほんとうに上の山はいいところです。

今は毎日大変なことが続く障害福祉の仕事ですが、喜んで待っていてくれる人がいるこの仕事に就けたことは私にとってこのうえない幸せです。

＊＊＊

私は若い時、長男が高熱を出し、障害児となってほんとうにうろたえ、生きる望みさえ失いました。その後、やはりこの子のために生きなければなら

ないと、自らいろいろ伝手を求めて一生懸命勉強しました。
たくさんの有名な先生やボランティアさん、施設の職員さんともお会いできましたし、たくさんの障害児者の親さんともめぐりあいました。
その中でも育成会の運動は私を育て、支えてくれました。私は育成会があったからこそ、今日あると思っています。全国、北海道から沖縄まで各県各都市の育成会とも交流を持ちました。
講演をさせていただいたことも数多くあります。一般の市民団体、教育関係の団体のみなさまと何度もお話をしたことそのひとつひとつが今でも心に残っています。
ＮＨＫやＣＢＣ、東海テレビでも出演を何度もさせていただきました。拙著の「花影の譜」は全国放送でラジオ番組の「朝のひととき」の時間で流していただいた時には、全国から沢山の励ましのお手紙を頂きました。
今、８０才になるという私を見て、きっと若いときの私は想像もつかないことでしょうが、こんな私でも、若いときはひたすら我が子を含めて障害児たちみんなが生きて、教育を受けて働けるように願い、一生懸命動いたものです。お会いして話をするだけでお互いが救われ、生きていく力がわいてくる・・・。親の会運動はほんとうに不思議であり、大切なものです。
最近では問題があるとはいえ、何もなかった時に比べればいろいろと法整備が進みました。そうした社会の雰囲気の中で与えられる事になれて、親の関心がややもすれば薄れているような気がして気をもんでしまうこともあります。親の会運動がなくても大丈夫ということはありません。そうした雰囲気に思わず、若い人たちを叱咤激励することもありました。
ところが、日進市の障害児を持つお母さんたちの集い「ジャングルジム」の動きをインターネットで読み驚きました。何でも次々と実行してきます。子どもをかかえながらパパにも協力してもらい、情報通信のいろいろな手だても活用してどんどん人の輪を広げていく。私は感動しました。まさに老婆心。彼女たちは自らわき上がるような思いで、なんでもやりこなしているのです。若いエネルギーはすばらしい。何も恐れずどんどんやって下さい。
がんばれ　ジャングルジム！

生活介護施設の課題

名東福祉会理事長　加藤久和

生活介護施設として利用者から期待されるセルフケアスキルの向上。障害が重い人にとって日常生活動作や身辺処理技能（セルフケアスキル）を学習することは重要です。理由は明白。セルフケアスキルを獲得することは
１　本人の健康の維持のために必須
２　スキルを獲得すれば親・支援者の全体的なケアを軽減することにつながる
３　社会の他者からの受入が改善し、社会的への参加機会が増加する
もっとも、障害が重い人にとってはセルフケアを獲得することは難しさを伴います。その理由としては
１　手先などをうまく動かすことができない
２　社会やまわりへの関心が低い
３　訓練機会が少ないこと
４　本人の認知能力の低さ
５　上記の要因の組み合わせ
などなど。「言うは易し、行うは難し」が重度の知的障害者のセルフケアスキルです。口をすっぱくして教えても、罰をあたて教えてもセルフケア技能は獲得できません。やはり緻密な応用行動分析の技術を用いて訓練していくしかありません。
１９６０年代。日本の施設の草分けの時代。そのころの施設は親は面会謝絶。こっそりと施設の中を覗いた名東福祉会の会長は豚小屋と同じように利用者の糞尿が居室に垂れ流されていたのを発見し、長男（筆者の兄）が利用している施設から引き取ったとのこと。当時の施設ではトイレットトレーニングはまったくされていませんでした。
アメリカではそのころからようやくトイレットトレーニングが始まりました。１９７０年代ではめざましく進展しました。現在では発達障害児のトイレットトレーニングはかなり幼少のころから行われるようになりました。その成果により、排泄が自立していない知的障害者は少なくなったものの、依然として訓練を行わなかったり、訓練機会が提供されていない知的障害者も多数いるのが現状です。
今後、障害者自立支援法によって日中活動と夜間ケアを分離が進んでくるため、入所施設の主な課題はパーソナルケアスキルの獲得になるでしょう。ところが、入所施設の夜間ケアは単価が極端に低く設定されているため、これらの学習を進めることが事実上不可能というシビアな問題があります。

これについては他の場面で論じましょう。

パーソナルケアといってもいろいろ。食べること、料理、排泄、入浴、着替、歯磨き、衣服の着脱、ベッドメイキング、女性の場合には生理の手当、男性の場合には性欲の処理など多々あります。それらすべてにわたって、適切な行動の学習とともに、不適切な行動の軽減が課題となります。

重度の知的障害者のパーソナルケアスキルの獲得は応用行動分析以外の方法では成果が上がっていません。生活介護施設はこうした技術を導入することが必須となると思われます。愛知県の場合、この技術の普及がたいへん遅れており、改善することが必要ということを愛知県知的障害者福祉協会長の安形さんともよく議論しています。

名東福祉会ではこの分野で日本の第一人者の久野能弘先生が「たけのこのいえ」で実践活動をされています。今後、「たけのこのいえ」が実績を上げ、愛知県の福祉施設に行動療法技術が普及していくことを期待します。パーソナルケアスキルの汎化（訓練場面だけではなく、日常生活場面で使えるようになること）は難しいが重要な課題です。重度の障害者の場合、家庭や施設でできても、他の場所でできないという場合が多い。専門家と連携し、その人が生活する場所ごとにそれなりの支援が必要となります。

この問題に対してはＴＥＡＣＣＨが地域全体を巻き込んで「構造化」していく戦略を提唱しています。アメリカでは障害者に環境側があわせていくという考え方も定着してきました。他にもＰＥＣＳといって視覚的手がかりを重視するコミュニケーション技法も普及しています。どんどん消えてしまう音声言語情報の処理よりも視覚情報の処理の方が自閉症者には一般に容易です。生活環境の中に視覚的な手がかりを普及させセルフケアスキルを発揮しやすくします。そうした環境側が障害に合わせて変わっていく努力も重要です。このように生活介護施設は利用者本人に対する直接的な訓練の他に、利用者の家族の知識や接し方に影響を与えていくことや、対象者が生活している地域社会という環境を変えていく努力も合わせて行っていくことが課題です。

知的障害者施設でスキルを身につけるためのサービスを提供することは古くて新しいテーマ。生活介護施設でこのテーマに真剣に取り組み、成果を上げていくことが今日的な課題です。

ご寄付ありがとうございます　平成１９年１０月２６日～１１月２５日

大原　誠様　加島美奈様　加藤康彦様　後藤良昭様　佐知輝敏様
鈴木卓孝様　廣田恒之様　山田敦美様　山田辰巳様　レジデンス日進家族会様

名東福祉会のホームページ

ホームページアドレス　http://www.meito.or.jp

●社会福祉法人　名東福祉会
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
●メイトウ・ワークス
〒465-0055　名古屋市名東区勢子坊 2-1303
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079
●天白ワークス
〒468-0023 名古屋市天白区御前場町 327
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416
●デイケア　はまなす
〒465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552
●レジデンス日進・ハートフルアクト日進
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
●こいけホーム
〒465-0047 名古屋市名東区小池町 468-1
TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385
●天白ホーム
〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越 141-3
TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578
●児童行動療育センター「たけのこの家」
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山 14 番3
TEL 052-800-2203　FAX 052-880-2204
●メイ・グリーン
〒470-0124　日進市浅田町平池112－3